

カキ



(10アール当り)

時期	方法	資材と施用法
収穫直後 礼肥 [9月中旬～11月中旬]	根の強化、樹勢回復、 秋の養分貯蔵、 花芽の充実 (翌春の開花・結実と、 新梢の充実を促す)	●根っ酵素3～5ℓを薄めて灌水(300倍前後)または500倍で 葉面散布(葉が薄く傷んでいる場合) ※肥料分が不足している場合には、根っ酵素の灌水後に補給。 ●硫安20kg ●畑の大将<青>20kg
冬肥 休眠期 [12月～1月]	なるべく深く 土を改良、地力作り	●硫安20kg(または複合肥料でチッソ成分4kg程度) ●畑の大将<青>20～40kg(pH5.5以上、6.0程度に) ●堆厩肥1トン(なるべく多く。または米ヌカ200kg以上) 堆厩肥・有機物を投入する際に、同時に硫安と微生物を投入。 ●ラクトバチルス600g→保水性向上・深層まで地力増強。 もしも特に土壤に不足している成分があれば、この時に投入して おく。(硫酸カリ20kgなど) ※施肥位置は、園全体に全面散布し、なるべく耕す。
春肥 [2月下旬～3月上旬]	春の栄養補給 3～5月の花器形成・ 発根・発芽・開花・結 実を促す	●硫安20～30kg ●畑の大将<青>20～40kg →カルシウムが花器を発達させ、受粉がよくなり、6月前半の落果が 少なくなる。カルシウムで着果後1ヶ月間の細胞分裂・果実の組 織形成が順調になるので、ヘタが大きくなり、後々ヘタスキや果 頂裂果が起きない。また新梢も太く充実する。 ●マンゾク粒状30～50kg →根から樹勢強化。春根を強く働かせ、開花・結果・生長の力をつける。 ※果実の細胞分裂・前期肥大は、主として蓄積養分と、春先の栄 養充実によるので、ここでバランスの良い施肥をする事。
着果初期 [6月上中旬]	果実の初期生長、 根の働きを強化	●根っ酵素500倍液を葉面散布、または3～5ℓ灌水 ●花咲<Ca液500倍>を葉面散布→細胞分裂促進。
玉肥 [6月上中旬]	夏の体力を準備 果実の肥大と、7月下 旬の花芽分化に	●硫安20～30kg ●畑の大将<青>20kg ※ここで施す肥料は果実に直接効くよりも、着果で消耗した樹体を 回復させ、葉を厚くするためのバランスの良い栄養分。
葉面散布 [6月下旬～8月]	葉の健康維持、 栄養コントロール (定期散布は7～14日ごと繰返し)	●花咲<Ca液500倍>→葉に厚みをつけ、充実させる。 ●根っ酵素500倍液→葉の機能強化、根を強くする。 ※原則として2種の散布を交互に行い、状態により加減する。
秋肥 [9月上旬]	秋の根の生長、 後期の果実肥大に	●硫安20～30kg ●畑の大将<青>20～30kg→着色・成熟の促進。 ※特に肥大を重視するなら、硫酸カリ10kgを併用。 ●マンゾク粒状30～50kg→根から樹勢強化。 ※秋の根を強く出させ、果実肥大とともに、落葉期までの養分貯蔵・ 充実を促して、翌年からの樹勢を旺盛にする。 ※チッソ施肥量はあまり多くせず、根の力を増強する事。
収穫前 [30日～10日前]	果実の成熟促進	●花咲<Ca液500倍>を葉面散布(7～14日間隔、2～3回)